YAMAHA

commercial audio

DSP5D and PM5D

Quick Setup Guide

DSP5D
DIGITAL MIXING SYSTEM

PM5D
DIGITAL MIXING CONSOLE

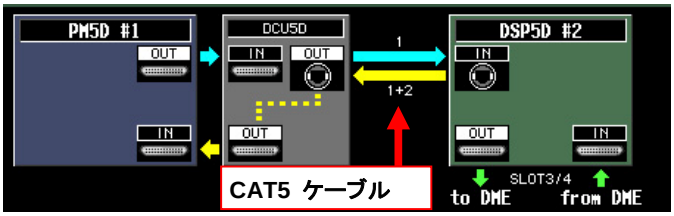
Version 2

クイックセットアップガイド

ケーブルを接続する

PM5D/PM5D-RH、DSP5D 取扱説明書 219 ページの記載にしたがってケーブルを接続してください。

Note: CAT5 ケーブルは 1 本で双方向に信号を送ります。たとえば下のイラストでは CAT5 ケーブル 1 本を DCU5D の RJ45 カスケードアウト端子から DSP5D の RJ45 カスケードイン端子につなぎ、DCU5D と DSP5D 間を接続しています。



システムを起動する

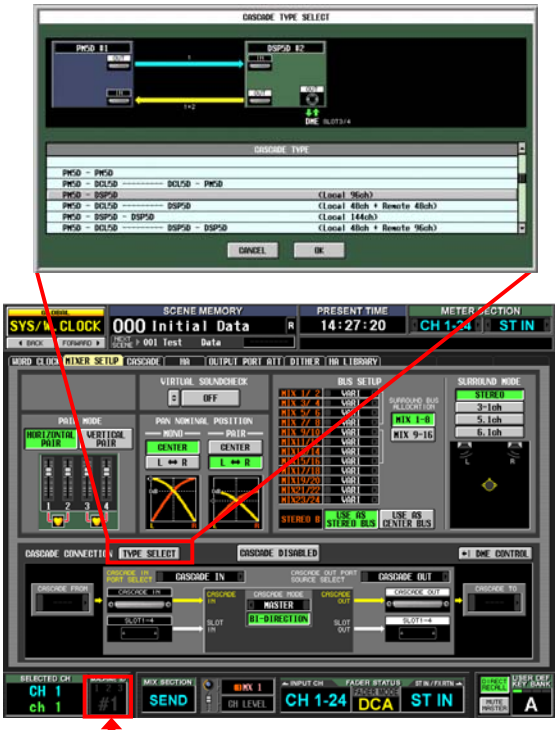
電源をオンにしてシステムを起動し、起動動作が完了するまで待ちます。
（この時、DSP5D→PM5D の順に電源を入れてください。）

Note: システム起動時に、”Sync Error”メッセージが表示されることがあります。
これは PM5D/PM5D-RH、DSP5D 双方ともマスタークロックとして設定され、正常な同期が行われていないためです。このガイドの最後の手順でシステムのワードクロックを正しく設定すると、このメッセージは表示されなくなります。

カスケードタイプを選択する

“Mixer Setup”画面で“Cascade Type Select”ウインドウを開き、システムのセットアップにあわせてカスケード接続のタイプを選択します。

Note: PM5D（マシン#1）を現在選択している場合のみカスケードタイプの選択を行うことができます。DSP5D のマシン ID は#2 または#3 に設定します。設定のしかたは取扱説明書の 150 ページを参照下さい。マシン#2 またはマシン#3 の DSP5D が選択されている場合は、マシン ID#1 の PM5D を選択してから上記手順を行ってください。



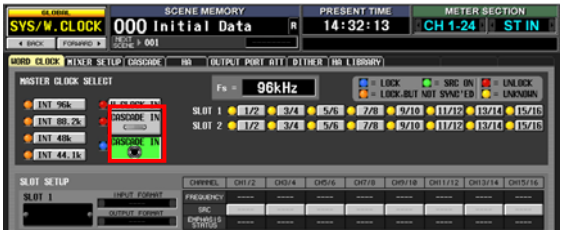
カスケード機能を有効にする

“Cascade Disabled” ボタンをクリックし、カスケード機能を有効にして機器間の通信ができるようにします。

Note：PM5D（マシン#1）を現在選択している場合のみカスケード機能を有効にすることができます。DSP5D のマシン ID は#2 または#3 に設定します。設定のしかたは取扱説明書の 150 ページを参照下さい。マシン#2 またはマシン#3 の DSP5D が選択されている場合は、マシン ID#1 の PM5D を選択してから上記手順を行ってください。

DSP5D のワードクロックソースを選択する

“WORD CLOCK” タブをクリックして、ワードクロック画面を呼び出します。LCD 画面下部のマシン ID 欄でマシンの選択を DSP5D #2 または#3 に変更します。
DSP5D #2 および#3 のワードクロックソースとして、“Cascade In (68-pin)” または”Cascade In (RJ-45)” を選択します。



Note:

PM5D/PM5D-RH と DSP5D 接続時のワードクロック設定について
外部ワードクロックジェネレータを使用しない場合、PM5D/PM5D-RH がそのシステムでは常にワードクロックマスターになり、DSP5D は常にスレーブになります。
このため、ワードクロックソースとして PM5D/PM5D-RH には内部クロック周波数（96k/88.2k/48k/44.1k）を選択し、DSP5D には ”Cascade In（68-pin/RJ-45）” を選択してください。

マシン ID の切り替えについて
パネル操作の対象となるマシン ID を選択する場合、“DSP5D Control” ファンクションで “ID#1” をユーザー定義キーのひとつにアサインし、”ID#2” をもうひとつのユーザー定義キーにアサイン（DSP5D を 2 台使用する場合はさらに”ID#3”を別のキーにアサイン）することにより、機器の切り替えを簡単に行うことができます。

操作機器画面の配色設定について
プリファレンス 2 の画面で、現在パネル操作の対象となっている機器を他の機器と明確に区別できるよう各操作機器画面の配色を変更することができます。